

通級指導教室における I C T 活用に関するアンケート

— 通級指導教室で I C T を活用する場合に有効だと思う方法 —

2017.2.27

本校では、地域の特別支援教育の充実に貢献することを目的に、山口県教育委員会、山口大学と連携を図りながら、特別支援教育における I C T 活用の充実に向けた取組を行っております。

その中で、特に小・中学校の通級指導教室における I C T 活用を効果的に進めるための教員用研修プログラムの開発に取り組んでおり、その基礎資料として小・中学校通級指導教室に対して、「通級指導教室で I C T を活用する場合に有効だと思う方法」についてアンケートを実施いたしました。

以下の内容は、そのアンケート結果をまとめたものです。各学校の発達障害のある児童生徒へのタブレット端末の活用にご活用ください。

I 自閉症スペクトラム障害 (ASD)

(1) アプリの活用

【事例 I-1】

校種	小学校
障害の状況	ASD/ADHD
学習や生活上の課題	集中が続かず、見通しが持てないと離席したり、授業の妨害をしたりしてしまう。何をしてもよいかわからず、不安な様子
活用の仕方	タイムタイマーのアプリを利用し、視覚的に学習の見通しと時間が分かるようにする。

(2) 写真・動画撮影

【事例 I-2】

校種	小学校
障害の状況	高機能自閉症
学習や生活上の課題	状況判断が難しい
活用の仕方	カメラやビデオ機能を使い、実際の場面を撮りそれを一緒に見ながら考える。

【事例 I-3】

校種	小学校
障害の状況	広汎性発達障害
学習や生活上の課題	集団に入れない、集団活動ができない
活用の仕方	カメラ機能を使って全体の動きや流れを知り、確認する

【事例 I-4】

校種	小学校
障害の状況	自閉症スペクトラム障害、自分の姿が客観的に見られない。
学習や生活上の課題	適切な行動さえ自覚できないので、目標を立てても般化しづらい。
活用の仕方	撮影機能の活用により活動中の姿も残す。自分の行動の振り返りに活用。

(3) プレゼン提示**【事例 I-5】**

校種	小学校
障害の状況	A S D
学習や生活上の課題	イメージ力が弱く、実際の生活場面での言動が身に付かない。
活用の仕方	音声付きの動画やスライドショーなどによって、場面がイメージしやすい中で自分の言動を考えるなどのS S Tを行う。自分の言動によってどのような結果になるかも教師の口頭による説明だけでなく、画面で説明して印象付ける。

【事例 I-6】

校種	中学校
障害の状況	A S D、A D H D
学習や生活上の課題	見通しを持って生活することが苦手であり、時間の流れが自分の中で納得できていないと落ち着いて学習や活動に取り組むことができない。
活用の仕方	タブレット端末を使い、教師が作成した「学習計画表」を見て全体の流れをつかんだり、本人の特性や困り感に寄り添い、必要だと思えることを付け加えたりするなど、自主的に活用できるようにする。また、このことを日常生活の中にも生かし、自分なりのスケジュールを立て、実行し、セルフコントロールする力を身に付けさせることを目指す。

(4) 動画再生**【事例 I-7】**

校種	中学校
障害の状況	自閉症スペクトラム
学習や生活上の課題	書くことで多くの情報量を読み取ることが苦手で、学習に向かえない。
活用の仕方	NHK やトライの動画教材を見せて学習内容を理解しやすくする。

【事例 I-8】

校種	中学校
障害の状況	自閉症スペクトラム障害
学習や生活上の課題	状況を理解する力や相手の立場や想像する力が弱く、対人関係がうまくいっていない。気持ちが不安定になりやすく自分の世界に閉じこもりがちである。
活用の仕方	動画（本人の好きなドラマやアニメの一場面）を見せ、登場人物の気持ちを想像させたり、自分の思いを語らせたりする中で、情緒を安定させるとともに、対人スキルの向上を目指す。

(5) その他

【事例 I-9】

校種	小学校
障害の状況	自閉症スペクトラム
学習や生活上の課題	困難さの理解と対処について
活用の仕方	困難な場面の振り返りとよりよい行動の練習

Ⅱ 学習障害（LD）

（１）読字障害

ア アプリの活用

【事例 Ⅱ－１】

校種	中学校
障害の状況	LD、英語の学習に苦手意識がある。英単語を覚えることが苦手。
学習や生活上の課題	英語の勉強を頑張りたいと思っているが、英単語が覚えられずに困っている。本人なりに努力はしているもののテストで点が取れず、有能感が得られない。
活用の仕方	学習ソフトを使い、PC等のキー入力をするので一文字ずつ意識して英単語を覚えるようにする。

【事例 Ⅱ－２】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字がなかなか覚えられず、書き順もバラバラで練習（書く）も苦手。また、九九が覚えられなかったり計算が苦手だったりする。
活用の仕方	アプリを用いて楽しみながら学習する。（書き順や書き取り、へんとつくりの組み合わせなど。九九練習なども）学習したらすぐ評価が得られる。

【事例 Ⅱ－３】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字の習得が難しく、計算もなかなかスムーズにできない。
活用の仕方	筆順、読みなど、タブレット端末のアプリを活用し、習熟を図る。意欲をもって取り組み、短時間で集中してできる力を育てることが習熟を高める。

【事例 Ⅱ－４】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	文字と読み（音声）が一致しない。
活用の仕方	正しい文字の選択、書き順、音声との一致、正誤がすぐわかる。

【事例 Ⅱ－５】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	眼球の動きが悪く正しく読めない
活用の仕方	ビジョントレーニング

【事例 II-6】

校種	中学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字の書き取りができない。計算で同じようなミスを繰り返す
活用の仕方	自らタブレットで漢字の書き取りの練習を繰り返し行う。同じような計算問題を何度も解きパターン化していく

【事例 II-7】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	読み間違いが多く、視覚的な面に困難さがある
活用の仕方	眼球運動の練習でビジョントレーニングを行う

【事例 II-8】

校種	中学校
障害の状況	LD 読みに難
学習や生活上の課題	文章が読めないことで、書いてあることから学べない。答えられない。
活用の仕方	写真に取り込んだ文字を音読してくれるアプリを活用し、文字情報を活用できる力を補える。

イ デイジー教科書の活用

【事例 II-9】

校種	小学校
障害の状況	ディスレクシア
学習や生活上の課題	教科書やテストの文が読めないために、内容を把握することが難しく、達成感を味わうことができない。
活用の仕方	教科書の音読では日々の宿題でデイジー教科書を活用することで読むことの抵抗を減らしている。今後も学習の自立を目指すために ICT の活用の仕方を研修する必要がある。

【事例 II-10】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	既習の漢字が読めなかったり言葉をまとまりとして捉えるのが苦手だったりする。
活用の仕方	デイジー教科書を使って音声を聞いたり一緒に読んだりできる。

【事例 II-11】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	読むことが難しいため、教科書の内容を理解することができない。
活用の仕方	電子教科書を使い、文字の音声再生機能を使って内容理解を促進する。

【事例 II-12】

校種	中学校
障害の状況	LD 読み書きが苦手。漢字を覚えることや縦書きの文章を読んだりすることが特に苦手。
学習や生活上の課題	国語の授業に対して苦手意識が強く、前向きな気持ちで授業に取り組むことができない。
活用の仕方	電子化された教科書の文章を音声で聞く。予習に活用する。

【事例 II-13】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	教科書がすらすら読めない
活用の仕方	デジジー教科書の使い方を指導する

ウ その他

【事例 II-14】

校種	中学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	文字の認識能力が低く、アルファベットや漢字の学習に困難を感じ学習意欲を失っている。
活用の仕方	英語や漢字の学習において、絵などのイメージと関連付けたり、ゲーム性を持たせるなどして、文字の学習に抵抗なく取り組めるようにする。

【事例 II-15】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字の習得が難しい。覚えても使えない。
活用の仕方	漢字の習得が難しい児童に、読み、筆順、文字、意味をよく分かるように提示すれば、視覚的に覚えることができるのではないか。

【事例 II-16】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	どこを見たらよいかわからなくなるため、たどたどしい音読となってしまう。
活用の仕方	センテンスごとに読む箇所を提示したり、徐々に読む箇所を増やしていくことで、読みの練習課題を行う。

(2) 漢字表出障害

ア アプリの活用

【事例 II-17】

校種	中学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	字形が整わないなど、書字に困難さが見られる。
活用の仕方	国語辞典や筆順辞典などのアプリを使い、正しい文字との比較を行ったりする。

【事例 II-18】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字を書くことの苦手さ
活用の仕方	ソフトを使ってなぞり書きなど

【事例 II-19】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字の字形を整えることが難しく、自分から学習に取り組みにくい
活用の仕方	わかりにくい漢字について、漢字アプリで筆順を調べてなぞり練習し覚えるために活用する。

【事例 II-20】

校種	中学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	書字に困難を抱えている。またはバランス感覚が悪く、書く字が読みづらい。
活用の仕方	アプリでなぞり書きでの書き順練習などを楽しく行えるようにする。表現方法が増えて意欲につながる。

【事例 II-21】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	書くことが苦手、漢字が覚えられない
活用の仕方	漢字のアプリ等を使って正しい漢字の確認や簡単なミニテストを行う。

【事例 II-22】

校種	中学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字の書き取りができない。計算で同じようなミスを繰り返す
活用の仕方	自らタブレットで漢字の書き取りの練習を繰り返し行う。同じような計算問題を何度も解きパターン化していく

【事例 II-23】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	書字障害
活用の仕方	漢字等の書き方を見る。(バランス等)

【事例 II-24】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞、LD
学習や生活上の課題	新しい知識の習得が困難である
活用の仕方	ダイジー教科書を活用し内容の理解を図る。筆順辞典で筆順を確かめる。漢字練習の負担を軽減する。日本地図パズルで都道府県を覚える。ひらがな、カタカナアプリで文字を覚える。

【事例 II-25】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	文字が正しく書けない(筆順、字のバランスなど)、漢字が覚えられない
活用の仕方	筆順アプリ等で筆順や字形の確認をする。ゲーム感覚で自分のペースで取組ながら学習の定着を図る。

【事例 II-26】

校種	小学校
障害の状況	LD(書字)
学習や生活上の課題	字の形がとれない。漢字の書きの苦手さ。漢字の苦手さから、漢字の学習、板書を書き写すこと、筆記テストなどに対する意欲低下。
活用の仕方	漢字アプリを利用し、書き順や形の確認。授業の板書をパソコンやタブレットを使って書き写す。

【事例 II-27】

校種	中学校
障害の状況	書字障害
学習や生活上の課題	文字を書くことが苦手で、板書を写したり文字を書いて表現したりする活動に困難が大きい。
活用の仕方	タブレット端末を用いて文章を書く。アプリを用いて漢字や英単語の練習をする。

【事例 II-28】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	文字が正しく書けない(筆順、字のバランスなど)、漢字が覚えられない
活用の仕方	筆順アプリ等で筆順や字形の確認をする。ゲーム感覚で自分のペースで取組ながら学習の定着を図る。

イ 写真・動画撮影

【事例 II-29】

校種	中学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	書く作業に時間がかかるため、板書が間に合わないことがある。
活用の仕方	タブレットで板書を撮影し、作業の負担を減らす。

【事例 II-30】

校種	小学校
障害の状況	漢字を書くことの苦手さ
学習や生活上の課題	漢字が正しく書けない、書き順が定着しない
活用の仕方	書き順アプリを用いる。大きく表示させることで、正しい画数や画の方向が理解しやすくなる。正しい書き順で書くことの必要性を感じる機会になる。

【事例 II-31】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	書字が苦手。漢字が覚えられない。
活用の仕方	タブレット端末の漢字辞典を使い、書き順を確認しながらなぞり書きをする。

【事例 II-32】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字学習が苦手。ノートに練習させても筆順も違い、字も丁寧ではない。
活用の仕方	筆順辞典のアプリで大きくゆっくりなぞることで漢字を少しずつでも覚えることができる。

ウ その他

【事例 II-33】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	書くことの困難
活用の仕方	漢字の学習

【事例 II-34】

校種	小学校
障害の状況	LD、ADHD
学習や生活上の課題	「書く」ことがとても苦手だったり、抵抗感をもっていたりするため、実際の能力よりも不当に評価される。
活用の仕方	ICTを活用して、知識の定着度を評価したり、本人に表現させたりする。

【事例 Ⅱ－35】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	目の動きが悪い、形をとらえにくい
活用の仕方	ビジョントレーニング、漢字や計算の指導を行う際の補助的な活用

【事例 Ⅱ－36】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞、LD
学習や生活上の課題	新しい知識の習得が困難である
活用の仕方	ダイジー教科書を活用し内容の理解を図る。筆順辞典で筆順を確かめる。漢字練習の負担を軽減する。日本地図パズルで都道府県を覚える。ひらがな、カタカナアプリで文字を覚える。

(3) 読字・書字障害の合併

ア アプリの活用

【事例 Ⅱ－37】

校種	中学校
障害の状況	LD、読み書き障害
学習や生活上の課題	文字を覚えるのが苦手で、ノートを取るのに時間がかかる。理解力はあるが、学習意欲も成績も低下傾向にある。
活用の仕方	ビジョントレーニングのアプリを使い、認知機能の向上を目指す。漢字や英語のアプリを使い、苦手な教科を楽しく学習する。

【事例 Ⅱ－38】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	文字の読み書きの困難さ
活用の仕方	アプリを利用した学習により読み書きの改善に役立てる。なぞり、視写、フラッシュカード（暗記）、ビジョントレーニング

【事例 Ⅱ－39】

校種	中学校
障害の状況	LD、ADHD
学習や生活上の課題	視力に問題はなく、よく見えているように見えても「見る力」に弱さがあり、「読む」「書く」「計算する」などの学習活動において、「文字がうまく書けない」「覚えられない」「読みが非常に遅い」「筆算が正確にできない」「数学の図形問題がわからない」などのつまずきにつながるケースが多い。また、スポーツにおいてもボールを目で追うことが苦手なため、「キャッチボールができない」などの困り感を抱いている。
活用の仕方	ビジョントレーニングソフトを使って、眼球運動を継続的に行うことにより、視機能を回復させることを目指す。

【事例 II-40】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	文字に関わる学習内容の定着の困難さ
活用の仕方	ビジョントレーニングを楽しく継続する。文字のイメージ化を補助する。多感覚で書字体験を行い、記憶にとどめやすくする。

【事例 II-41】

校種	小学校
障害の状況	LD 読み書き障害
学習や生活上の課題	漢字の読み書きが苦手。字形が整わず、漢字のバランスが悪い。漢字ノートに練習してもだんだん感じが変わっていく。
活用の仕方	ビジョントレーニングをタブレットで行う。漢字の書き順アプリなどを利用し、大きいマスに正しく書く練習をする。

【事例 II-42】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	読み書きの困難さからくる学習意欲の低下
活用の仕方	タブレットを用いた漢字学習

【事例 II-43】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字が覚えられない。
活用の仕方	漢字の書き順がアニメーションで出てくる。

【事例 II-44】

校種	小学校
障害の状況	LD（書字・読字）
学習や生活上の課題	漢字を読んだり書いたりする際に一人では難しい。
活用の仕方	「辞書アプリ」ひらがな入力すると漢字に変換できるので宿題のプリントができる。 「書き順アプリ」読めない漢字を書いたら読み方や使い方が表示される。筆順も確認できる。字形のバランスや細かな長さなども見て確認しやすい。

【事例 II-45】

校種	中学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字の読み書きができない（小1の漢字80字未習得）学習意欲が低い。書字に対する抵抗感
活用の仕方	漢字アプリの活用、書字は画面に直接指で書ける。ゲーム感覚で学習ができ、視覚的効果がある。自己の学習の達成度、進捗状況が簡単に確認できる。

【事例 II-46】

校種	中学校
障害の状況	学習障害：識字障害
学習や生活上の課題	識字障害のため、年齢相応の文章の読み書きができずに困っている。
活用の仕方	下学年の内容でわかりやすい漢字筆順アプリなどを使用して学習する。

【事例 II-47】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字の読み書きが苦手
活用の仕方	大きく文字が書けるアプリで筆順を学んだり、同音異義語を選択するゲームや漢字の間違い探しなどを通常のプリント学習の合間に入れたりすると気分転換にもなり効果が上がる。

【事例 II-48】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字が覚えられない、漢字への抵抗感が大きい
活用の仕方	書き順アプリ

【事例 II-49】

校種	中学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字の読み書きが難しく、ローマ字の習得もできていないため、電子辞書等での検索も難しい。
活用の仕方	漢字の読みを調べたいときや漢字練習の際に、手書きで漢字を画面に書写すると読み方や書き順が表示されるため、気軽に調べられる。漢字練習の際も、指でなぞって練習できるので鉛筆を使用して書き取りをするよりも抵抗感を軽減できる。

【事例 II-50】

校種	小学校
障害の状況	書く・読むが苦手な児童、漢字・文字の定着が難しい児童
学習や生活上の課題	ノートが写せない、漢字が読めないため、国語以外の実力が出せない
活用の仕方	漢字の練習。書く・読むの支援（代替りの支援）

【事例 II-51】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞・LD
学習や生活上の課題	文字を読むのが苦手。漢字の読み書きが苦手
活用の仕方	タブレット端末を使って、楽しく文字を読んだり、漢字を読み書きしたりすることで、文字や漢字への抵抗感をなくす。

【事例 II-52】

校種	中学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	抽象的思考を苦手とする。読み書き計算の力が低い。集中力が続かない。
活用の仕方	ゲーム感覚でできる学習アプリの活用。学習内容に関連する画像等を見せ、興味をもたせる

【事例 II-53】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	字を書く、漢字を覚えるといった識字能力に問題があり、学級で同じように学ぼうとするとき難しさがある
活用の仕方	漢字アプリを使って、書き順の確認、読み、書きを復習している。アプリの漢字認知機能を使って書き順や位置などを即座にチェックできるところが効果的である。

【事例 II-54】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字やひらがななど、文字の形がとれなかったり、覚えられなかったりする。
活用の仕方	漢字やひらがな、カタカナの書き順のアプリや文字を当てはめるアプリを使うことで、楽しみながら文字の学習を行える。また、文字の形を見て覚えられる。

【事例 II-55】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	ひらがな、カタカナ。漢字の読み書きが定着しにくい。
活用の仕方	タブレット端末を使い、文字に関するアプリで自分の苦手な学習を楽しく行う。

【事例 II-56】

校種	小学校
障害の状況	LD、読み書きの難しさ
学習や生活上の課題	漢字が読めず、文章の意味がつかめない。
活用の仕方	アプリ「タッチ&リード」の読み上げ、書き込み等ができる。

イ 写真・動画撮影

【事例 II-57】

校種	小学校
障害の状況	読み書き障害
学習や生活上の課題	文字を読むのに時間がかかる。文字を書くが形が整わない。
活用の仕方	音読の代わりにデイジー教科書を使い、聞いて予習する。ノートや連絡帳の代わりに黒板を写真に撮る。

ウ その他

【事例 II-58】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字が覚えられないために書き取りはもちろん、音読がスムーズにできず意欲的に学習に取り組めないことがある。
活用の仕方	具体的な活用の方法はよくわからないが、ICT を使うことで興味関心が高まり、学習に対する意欲の向上につながる面もあると思う。

【事例 II-59】

校種	小学校
障害の状況	読み書き障害
学習や生活上の課題	文字を読むのに時間がかかる。文字を書くが形が整わない。
活用の仕方	音読の代わりにデジジー教科書を使い、聞いて予習する。ノートや連絡帳の代わりに黒板を写真に撮る。

【事例 II-60】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	読む、書くなどに苦手さがある。
活用の仕方	その子どもに合った覚え方に活用する。(例：分解して、パーツに名前を付けて覚えるなど)

(4) 算数障害

ア アプリの活用

【事例 II-61】

校種	中学校
障害の状況	LD、ADHD
学習や生活上の課題	視力に問題はなく、よく見えているように見えても「見る力」に弱さがあり、「読む」「書く」「計算する」などの学習活動において、「文字がうまく書けない」「覚えられない」「読みが非常に遅い」「筆算が正確にできない」「数学の図形問題がわからない」などのつまずきにつながるケースが多い。また、スポーツにおいてもボールを目で追うことが苦手なため、「キャッチボールができない」などの困り感を抱いている。
活用の仕方	ビジョントレーニングソフトを使って、眼球運動を継続的に行うことにより、視機能を回復させることを目指す。

【事例 II-62】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	目の動きが悪い、形をとらえにくい
活用の仕方	ビジョントレーニング、漢字や計算の指導を行う際の補助的な活用

【事例 II-63】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字がなかなか覚えられず、書き順もバラバラで練習（書く）も苦手。また、九九が覚えられなかったり計算が苦手だったりする。
活用の仕方	アプリを用いて楽しみながら学習する。（書き順や書き取り、へんとつくりの組み合わせなど。九九練習なども）また、学習したらすぐ評価が得られる。

【事例 II-64】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	計算が苦手である。
活用の仕方	計算の練習が楽しくできるアプリを使用する。

【事例 II-65】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	漢字の習得が難しく、計算もなかなかスムーズにできない。
活用の仕方	筆順、読みなど、タブレット端末のアプリを活用し、習熟を図る。意欲をもって取り組み、短時間で集中してできる力を育てることが習熟を高める。

【事例 II-66】

校種	中学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	漢字の書き取りができない。計算で同じようなミスを繰り返す
活用の仕方	自らタブレットで漢字の書き取りの練習を繰り返し行う。同じような計算問題を何度も解きパターン化していく

(5) その他

ア アプリの活用

【事例 II-67】

校種	小学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	目と手の協応に苦手さがあり、処理速度に時間がかかる。
活用の仕方	ビジョントレーニングのアプリを使って、楽しみながら素早く眼球運動やタッチ操作の練習をする。

【事例 II-68】

校種	中学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	抽象的思考を苦手とする。読み書き計算の力が低い。集中力が続かない。
活用の仕方	ゲーム感覚でできる学習アプリの活用。学習内容に関連する画像等を見せ、興味をもたせる

【事例 II-69】

校種	小学校
障害の状況	学習障害
学習や生活上の課題	文章中に出てくる言葉を知らないためにイメージができない
活用の仕方	知らない言葉を画像検索して視覚的に見せる

【事例 II-70】

校種	小学校
障害の状況	LD、情緒障害
学習や生活上の課題	ノートやプリントで漢字や計算の反復練習をすることが嫌いなので、基本的な学習スキルが身に付かない。
活用の仕方	ある程度自分の課題に取り組んだ後、学習ゲームのアプリを使うことで、楽しんで反復練習ができる。

イ その他

【事例 II-71】

校種	中学校
障害の状況	LD
学習や生活上の課題	学習で見通しがもてなくなると学習意欲が低下することがある。
活用の仕方	電子黒板で問題のイメージをつかみやすいようにする。

Ⅲ 注意欠陥多動性障害（ADHD）

（１）アプリの活用

【事例 Ⅲ－１】

校種	小学校
障害の状況	ADHD
学習や生活上の課題	集中してみるのが苦手であるために、文章を読むとき、行を飛ばしたり文字を見落とししたりする。
活用の仕方	ビジョントレーニングのアプリを使って段階的に「見る」練習ができる。

【事例 Ⅲ－２】

校種	中学校
障害の状況	LD、ADHD
学習や生活上の課題	視力に問題はなく、よく見えているように見えても「見る力」に弱さがあり、「読む」「書く」「計算する」などの学習活動において、「文字がうまく書けない」「覚えられない」「読みが非常に遅い」「筆算が正確にできない」「数学の図形問題がわからない」などのつまずきにつながるケースが多い。また、スポーツにおいてもボールを目で追うことが苦手なため、「キャッチボールができない」などの困り感を抱いている。
活用の仕方	ビジョントレーニングソフトを使って、眼球運動を継続的に行うことにより、視機能を回復させることを目指す。

【事例 Ⅲ－３】

校種	小学校
障害の状況	ADHD
学習や生活上の課題	集中が続かずすぐ姿勢が崩れてしまう。また、筆圧が強過ぎて字形のバランスが悪い。
活用の仕方	ウォーミングアップとしてビジョントレーニングを行い集中力を高める。姿勢が崩れかける後半、美文字アプリを使いゆっくりと丁寧に書くことができるようにする。

【事例 Ⅲ－４】

校種	小学校
障害の状況	ADHD
学習や生活上の課題	落ち着かない、集中力がない
活用の仕方	ビジョントレーニング、興味のある課題に取り組むことで集中できる時間を延ばす

【事例 Ⅲ－５】

校種	小学校
障害の状況	ADHD
学習や生活上の課題	課題中にもつい大きな声でしゃべってしまう。
活用の仕方	声の大きさが視覚的にわかるアプリのタイマーを使い、自分の声の大きさを意識させるとともに無音の時間や状態を体感させる。

【事例 Ⅲ－6】

校種	小学校
障害の状況	ASD／ADHD
学習や生活上の課題	集中が続かず、見通しが持てないと離席したり、授業の妨害をしたりしてしまう。何をしてもよいかわからず、不安な様子
活用の仕方	タイムタイマーのアプリを利用し、視覚的に学習の見通しと時間が分かるようにする。

(2) プレゼン提示**【事例 Ⅲ－7】**

校種	中学校
障害の状況	A S D、A D H D
学習や生活上の課題	見通しを持って生活することが苦手であり、時間の流れが自分の中で納得できていないと落ち着いて学習や活動に取り組むことができない。
活用の仕方	タブレット端末を使い、教師が作成した「学習計画表」を見て全体の流れをつかんだり、本人の特性や困り感に寄り添い、必要だと思うことを付け加えたりするなど、自主的に活用できるようにする。また、このことを日常生活の中にも生かし、自分なりのスケジュールを立て、実行し、セルフコントロールする力を身に付けさせることを目指す。

(3) 写真・動画撮影**【事例 Ⅲ－8】**

校種	小学校
障害の状況	A D H D
学習や生活上の課題	多動
活用の仕方	授業等の様子を録画し、振り返りに活用する。

【事例 Ⅲ－9】

校種	小学校
障害の状況	ADHD
学習や生活上の課題	整理整頓が苦手な引き出しやロッカーなど身の回りが散らかっている。
活用の仕方	写真を撮って整頓の様子を評価し、具体的な手立てを考える。

(4) その他**【事例 Ⅲ－10】**

校種	小学校
障害の状況	ADHD、限局性学習症
学習や生活上の課題	読み困難、注意集中力がない。(注意が向かない、持続できにくい)
活用の仕方	注意を向けることができるようになった。頭の中での操作が早くなった(計算)。

【事例 Ⅲ－１１】

校種	小学校
障害の状況	LD、ADHD
学習や生活上の課題	「書く」ことがとても苦手だったり、抵抗感をもっていたりするため、実際の能力よりも不当に評価される。
活用の仕方	ICTを活用して、知識の定着度を評価したり、本人に表現させたりする。

【事例 Ⅲ－１２】

校種	中学校
障害の状況	ADHD
学習や生活上の課題	落ち着きがなく、音読や計算でのケアレスミスが多い。
活用の仕方	見通しをもつことによって落ち着いて取り組むことができる。ミスをして自分のペースでやり直すことができる。

【事例 Ⅲ－１３】

校種	中学校
障害の状況	注意欠陥多動性障害
学習や生活上の課題	一度に複数のものに興味が向くため、情報整理して正確につかむことができない。
活用の仕方	画面（制限された情報）に集中させることで、情報を的確につかむ練習を行う。

【事例 Ⅲ－１４】

校種	小学校
障害の状況	ADHD
学習や生活上の課題	実際の学習量の多少に関係なく、学習の教材や練習問題などに活動の最後まで注意を傾けることが苦手で、途中で取り組むことをあきらめてしまうことがよくある。
活用の仕方	一画面に提示される課題の量が個人に合わせて変えられることで、取り組む意欲を保持しやすくなった。課題の正誤を音や映像で理解しやすい。また、直後にそれが分かり、やり直しのチャンスも直後にあることで集中が続きやすい。

IV 言語障害

(1) 構音障害

ア アプリの活用

【事例 IV-1】

校種	小学校
障害の状況	言語障害
学習や生活上の課題	発音が難しい言葉があり、そのため在籍学級で自信をもって発言できない。
活用の仕方	パンケーキタワー等のゲームアプリを用い、教員としりとり等の言葉のゲームを楽しむことでたくさん話をする機会をつくる。話すことは楽しいと思うきっかけづくりに利用できる。

【事例 IV-2】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	発音できない音があるため伝わらないことがある
活用の仕方	同じ音を何度も練習する際、楽しく飽きずくりかえし練習するため、タブレット端末を使う（パンケーキタワー、100段アイスなど）

【事例 IV-3】

校種	中学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	発音の不明瞭さに加え、口の動かし方が不十分であるため、発した言葉が伝わりにくい。
活用の仕方	面接指導前に相手に聞き取りやすい発音をするということを目標に発音の練習を行った。声を拾い、文字に変換するソフトを使うことで、うまく発音できていなくても人から指摘されるわけではないため、いらいらすることもなく練習できる。

イ 写真・動画撮影

【事例 IV-4】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	うまくしゃべれないため、人と話すことに苦手意識を持ち、口もあまり開けることがない。
活用の仕方	本時の口の画像や映像を撮って見ることで、自分の口に興味をもち、声の出し方を認識することができるようにする。

【事例 IV-5】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	自分の位置を客観視したり発音している音を自分で聞いたりすることができない。
活用の仕方	タブレットを見たり聞いたりすることで自分の課題に気付くことができる。

【事例 IV-6】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	練習プログラム作成・活用
活用の仕方	録音、録画機能の活用、構音指導に活用

【事例 IV-7】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	会話、音読の不明瞭さ（コミュニケーションに問題なし）
活用の仕方	録画して音の確認をする

【事例 IV-8】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	自分の発音や口、舌の状態を把握する
活用の仕方	タブレットに撮影し、本人に見せる

【事例 IV-9】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	発音の誤りがある。
活用の仕方	タブレット端末を使って、発音を録音し、その場で聞くことで自分の発音のよいところと直すとよいところがわかる。

【事例 IV-10】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	音なので記録として残らないので、自分の発音に対する意識を持たせることや上達の様子が本人にもわからない
活用の仕方	発音の録音、口腔器官の様子などを知る。自己の発音の状態を知る。

【事例 IV-11】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	構音器官を正しく動かすことが難しいため、発音が不明瞭となり、コミュニケーションに困難さを抱えている。
活用の仕方	正しい構音の方法を動画等で視覚的に提示する。また、子ども自身の構音の様子を動画で確認する。

【事例 IV-12】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	発音が聞き取りにくい。
活用の仕方	タブレット端末で発音時の動画を撮って、現在の自分の口の開け方や舌の動き、発音を確認する。以前の動画と比べて改善されたところを自覚する。

ウ その他

【事例 IV-13】

校種	小学校
障害の状況	構音障害
学習や生活上の課題	正しい発音ができない
活用の仕方	発声練習のためのカードや単語、文の提示

【事例 IV-14】

校種	小学校
障害の状況	言語障害 構音障害
学習や生活上の課題	発音練習が単調になり意欲が低下している
活用の仕方	○回練習したら一回アイスクリームを積めるなど、お楽しみがあると意欲的に発音練習ができた。

(2) 言語発達遅滞

ア アプリの活用

【事例 IV-15】

校種	
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	漢字が覚えられない、音読で勝手読みがある
活用の仕方	筆順やパーツがわかるアプリの活用。電子教科書で予習させる。

【事例 IV-16】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞、LD
学習や生活上の課題	新しい知識の習得が困難である
活用の仕方	ダイジー教科書を活用し内容の理解を図る。筆順辞典で筆順を確かめる。漢字練習の負担を軽減する。日本地図パズルで都道府県を覚える。ひらがな、カタカナアプリで文字を覚える。

【事例 IV-17】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	読み書きの困難
活用の仕方	アプリなどを活用し、漢字と意味のイラストを対応させることを通して、作業の負担を減らし、児童に合った形で内容の定着を図る。音読が苦手な児童に対して、単語のフラッシュカードの練習などを行う。

【事例 IV-18】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞・LD
学習や生活上の課題	文字を読むのが苦手。漢字の読み書きが苦手
活用の仕方	タブレット端末を使って、楽しく文字を読んだり、漢字を読み書きしたりすることで、文字や漢字への抵抗感をなくす。

イ 写真・動画撮影**【事例 IV-19】**

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	経験を思い出して言葉で表現することが苦手である。語彙も少ない。
活用の仕方	画像や動画で活動の様子を記録し、それを見ながらキーワードお想起する。キーワードを使って話したり書いたりする活動を行い、言葉で表現する力を育てる。

ウ ネット検索**【事例 IV-20】**

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	語彙が少ない
活用の仕方	言語概念の形成のために、マインドマップを作成する。イメージするための画像や動画をネット上で探し、貼り付けるなど。

エ プレゼン提示**【事例 IV-21】**

校種	小学校
障害の状況	言語発達障害
学習や生活上の課題	文字やことば、文章を読むことが極端に苦手
活用の仕方	文字の筆順を示す、物の名前と物の絵を組み合わせる、間違い探しをする、クイズをするなど動画を提示しながら示すと視覚的にとらえやすい物もあると思う。

オ デイジー教科書

【事例 IV-22】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞、LD
学習や生活上の課題	新しい知識の習得が困難である
活用の仕方	デイジー教科書を活用し内容の理解を図る。筆順辞典で筆順を確かめる。漢字練習の負担を軽減する。日本地図パズルで都道府県を覚える。ひらがな、カタカナアプリで文字を覚える。

【事例 IV-23】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞、LD
学習や生活上の課題	新しい知識の習得が困難である
活用の仕方	デイジー教科書を活用し内容の理解を図る。筆順辞典で筆順を確かめる。漢字練習の負担を軽減する。日本地図パズルで都道府県を覚える。ひらがな、カタカナアプリで文字を覚える。

【事例 IV-24】

校種	
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	漢字が覚えられない、音読で勝手読みがある
活用の仕方	筆順やパーツがわかるアプリの活用。電子教科書で予習させる。

カ その他

【事例 IV-25】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	語彙が少ない、言葉の意味がわからない
活用の仕方	そのものや事柄を視覚的に示したり、かみ砕いた説明を読んだりすることで理解を図る。(絵事典的な利用)

【事例 IV-26】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	語彙が少ない、思いを表現できない、作文が書けない
活用の仕方	上位概念、下位概念、仲間分けなどが考えられるもの

【事例 IV-27】

校種	小学校
障害の状況	言語発達遅滞
学習や生活上の課題	言語理解が劣るため、学習内容を理解することが難しい。語彙力の向上を図ることが必要である。
活用の仕方	ことばと絵のマッチングを図る活動を仕組むことで、楽しみながら必要な用語を身に付けさせている。ゲーム性のある活動があることで意欲的に学習を進めることができる。

【事例 IV-28】

校種	小学校
障害の状況	語彙の不足（名称と意味が結び付かない）
学習や生活上の課題	視覚情報の提示
活用の仕方	

（3）吃音

【事例 IV-29】

校種	小学校
障害の状況	吃音、多動傾向
学習や生活上の課題	興味のない課題に取り組むことが難しい。
活用の仕方	児童の興味のある画像や動画を使い、漢字の書き取りや文づくりを行い、進んで読む。

（4）その他

【事例 IV-30】

校種	中学校
障害の状況	言語、コミュニケーション
学習や生活上の課題	基礎学力が不足し、学習に対して集中力が続かない。
活用の仕方	学習に興味関心を持たせて意欲的に取り組ませる。視覚優位の生徒に活用する。基礎学力の定着を図る。（基礎学力が不足している）

V 情緒障害

(1) アプリの活用

【事例 V-1】

校種	小学校
障害の状況	情緒障害
学習や生活上の課題	在籍学級での支持が理解しにくいいため、何事にも時間がかかり、自分に自信が持てなくなってきた。何をすればよいか分からなくなると固まってしまったりパニック気味になったりすることがある。
活用の仕方	漢字の書き取り、計算練習等の視覚的にわかりやすいアプリを利用する。一問ずつ正解、不正解が確認できて分かりやすい。また、ゲーム性があり、楽しいアプリを利用することで意味を持って学習に自信をつけられる。

【事例 V-2】

校種	小学校
障害の状況	LD、情緒障害
学習や生活上の課題	ノートやプリントで漢字や計算の反復練習をすることが嫌いなので、基本的な学習スキルが身に付かない。
活用の仕方	ある程度自分の課題に取り組んだ後、学習ゲームのアプリを使うことで、楽しんで反復練習ができる。

【事例 V-3】

校種	中学校
障害の状況	情緒障害
学習や生活上の課題	小学校からの不登校で学習の学び損ねが多い。場面緘黙で自分の意思をほとんど表現できない。立体感覚がつかみにくい。
活用の仕方	立体図形なども視覚的にわかりやすい映像を使った授業ができる。タッチすることで表現しやすくなる。

【事例 V-4】

校種	小学校
障害の状況	情緒障害
学習や生活上の課題	集中力にかける。不注意である。
活用の仕方	漢字などの書き取りにおいては「とめ、はね、はらい」などに注意して学習に取り組むことができる。必要な情報を視覚的にとらえやすくする。

(2) プレゼン提示

【事例 V-5】

校種	中学校
障害の状況	情緒障害
学習や生活上の課題	パソコンやゲームには極めて強い関心を寄せるが、教科書等を使った一般的な学習には集中力が持続していない。
活用の仕方	生徒の興味・関心を高めるためにタブレット端末等を使って学習内容を効果的に提示する。

(3) ネット検索

【事例 V-6】

校種	小学校
障害の状況	情緒障害
学習や生活上の課題	言葉だけではイメージができない。図や写真があれば手助けとなり、一人でも落ち着いて学習ができる。
活用の仕方	必要な図や写真、イラストなどを準備しておき、本人が必要な時に見られるようにしておく。また、インターネット検索についてもできるようにしておく など。

(4) 写真・動画撮影

【事例 V-7】

校種	小学校
障害の状況	情緒障害
学習や生活上の課題	学年の授業に参加できないため、同級生の様子が気になっているが自分では見ることができない。
活用の仕方	運動会、集会、発表会などの様子を動画にとって見せる。

(5) その他

【事例 V-8】

校種	小学校
障害の状況	情緒障害等
学習や生活上の課題	ルール理解、順守意識が弱い
活用の仕方	NHK for School を用いる。学校や地域での生活に必要なルールに関する動画を短時間に編集したものが活用しやすい。

VI 場面緘黙

(1) アプリの活用

【事例 VI-2】

校種	小学校
障害の状況	場面緘黙
学習や生活上の課題	自分の思いを伝えることが困難である。
活用の仕方	タブレット（筆談アプリ／筆談パット）を活用してコミュニケーションを図る。

(2) 写真・動画撮影

【事例 VI-1】

校種	小学校
障害の状況	場面緘黙
学習や生活上の課題	学校では発表の場面など表現しにくい
活用の仕方	家でタブレット端末の動画機能を活用し、できる場면을録画して学校の担任など、本人の了解のもとにみてもらう。

VIII その他

【事例 VII-1】

校種	小学校
障害の状況	視覚障害
学習や生活上の課題	目の動き
活用の仕方	ビジョントレーニング

【事例 VII-2】

校種	小学校
障害の状況	自閉傾向
学習や生活上の課題	新しいこと、少し困難ことに後ろ向き
活用の仕方	九九のアプリを活用することで、意欲的に九九の学習に取り組めるようになった。

【事例 VII-3】

校種	小学校
障害の状況	LD 傾向
学習や生活上の課題	漢字を正しく書くことが困難
活用の仕方	筆順アプリで筆順、漢字の構成について学習。筆順についての認識が高まった。

【事例 VII-4】

校種	小学校
障害の状況	発達障害
学習や生活上の課題	漢字の筆順や字形が正しく書けない
活用の仕方	知りたい漢字の筆順が色別で順に現れたり、なぞり書きができたりすることで漢字の習得率が上がり、漢字に対する興味関心も高まる。

【事例 VII-5】

校種	小学校
障害の状況	ボディイメージがつかめなため、立ち幅跳びや組体操の時に体の使い方がわからなくなる
学習や生活上の課題	写真やビデオにとってタイミングを確認したり、音源として流したり(リズムに合わせるスキル)することで、自分の体の使い方を改善できる
活用の仕方	

【事例 VII-6】

校種	中学校
障害の状況	ADHD もしくは LD 紙媒体にある文字量を見るだけで学習意欲が萎えるなど
学習や生活上の課題	教科書や説明書などの文字情報の多さから読もうとしない。読んでも目で追うだけで意味理解につながらないなど。
活用の仕方	文字の情報を小出しにする。図や絵などを使って理解を促すなど。